



『医療の場を整える環境デザイン』のコンセプトで 病室をデザイン！ at HOSPEX Japan 2019

2019年11月20日(水)～22日(金)、東京ビッグサイト(東京都江東区)において「HOSPEX Japan 2019」が開催された。弊社より同年5月『医療の場を整える環境デザイン』を上梓した戸倉蓉子氏が全体監修した「元気になる病室デザインコーナー」は同書の内容を具現化したものである。その模様を紹介する。

株式会社ドムスデザイン代表取締役で一級建築士、看護師の資格を持つ戸倉蓉子さん(写真右)は、コーナー来場者応対の傍らで、会期中にミニセミナーを実施した。

同社チーフデザイナーの中村麻紀さん(写真左)と行ったセッションテーマは「世界の病院と日本の病院を見て考える。医療の場を整える環

境デザインとは」であった。廊下に子どもの写真やアートをちりばめた米国の子ども病院や、同社がデザインした各階エレベーターホールに世界各国のあいさつと地図を描いた日本の病院などを紹介し、参加者に大いに刺激を与えた。立ち見が出る回もあったミニセミナーだが、参加者は看護職をはじめ

とした医療職、病院の事務部門、設計会社、建築会社所属が多数を占めていた。感想を聞いてみると「病院改築を控えておりとても参考になった。自院で提案したい」という看護師長や、「患者さんが温かい環境で過ごせるようなアイデアを考えたい」と看護師から声が挙がった。展示企画は盛況のうちに幕を閉じた。

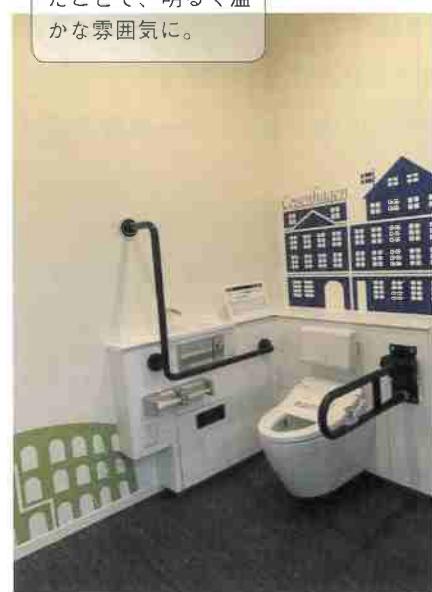
(撮影・文責: 青野昌幸)



写真中の①～③のデジタルアートは吉岡純希氏が作成した。①はプロジェクトで天井に患者家族の写真を投影。②は時計と患者のバイタルデータ(体温、脈拍、血圧)を患者に付けたセンサーを通じて投影。③は②のデータ変化を反映して形が変わり動くプロブ(BLOB: しみ)。体温が高いと色が変化し、脈が高ければ動きが激しくなる。



壁にフランスの
パリにちなんだ
絵柄を入れたこ
とで、洗面所が
楽しい雰囲気に。



車いす用のトイレは
穏やかな風景になりがちだ
が、壁にデンマークのコペンハーゲンに
ちなんだ絵柄を入れたことで、明るく温
かな雰囲気に。

医療の場を整える 環境デザイン



戸倉蓉子著
● A5判・120ページ
● 定価(本体2000円+税)
ISBN978-4-8180-2188-4
発行 日本看護協会出版会
(TEL: 0436-23-3271)

- 《主な内容》
- 建物は女性？男性？
 - 病院の外壁は白が多い。なぜ？
 - 看板はイメージを統一して
 - 植物から元気をもらう
 - 美しい窓辺は人を癒やす
 - 病院に入る緊張を和らげる方法
 - スタッフルームを美しく
 - リラックスできる待合室にするため色彩を工夫
 - 待合室の照明と色温度
 - 車いすの居場所を決めておくなど全50テーマ！

住宅設備・建材メーカー・ベッドメーカーの協賛により実現した「デザインで元気になる新しい病室」。アクセントウォール(壁を同色にせず、一面は色を変えたり柄を入れる技法)の採用と、枕元に沿った間接照明で落ち着いた温かい病室を提案。